

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- ① 発見と感動により、学ぶことの喜びや大切さを教え、教職員が一丸となって生涯学習を可能にする最低限の学力と意欲を育成する。
- ② 生徒一人ひとりが自己の価値に気付き、自尊心を高め、夢や希望の実現に向かって健康的で人間性豊かな人材を育成する。
- ③ ものづくり教育等を通して創造する力を高め、日常の問題を解決し、地域社会に貢献する創造的人材を育成する。

2 中期的目標

1 学ぶことの喜びを通して確かな学力の育成

(1) 特色ある総合学科の教育活動を通じて社会で必要とされる基礎的・基本的な学力の育成を図る。

ア 生徒一人ひとりの学習歴や学力に応じたきめ細かな教材や指導方法の工夫を行い、教員間で生徒の情報を共有して指導を行うなど、生徒が学校や社会で困らないために3方面（社会面・学習面・身体面）から支援を行う。

イ 今後期待されるロボット技術やプログラミング技術など、ICT ものづくり技術教育を推進し、生徒の創造性を高める。

ウ 急速なグローバル化により、様々な場面で語学力が要求される時代を生きるために、語学力を活用しコミュニケーション能力の育成を図る。

※生徒向け学校教育自己診断における授業満足度「この学校は、他の学校にない特色がある」（R01年度74% R02年度67% R03年度75%）を令和6年度には80%以上にする。

(2) 教員のスキルアップを活用し魅力ある学校づくりをめざす。

ア 公開授業や研究授業などを取り入れた校内研修や、授業アンケートを効果的に活用した授業改善に取り組み、授業力を向上させる。

イ 内外の研修機会を利用して個々の教員の価値観を広めるとともに、新たな教育実践に挑戦し質の高い学びを提供する。

※生徒向け学校教育自己診断における授業満足度「授業はわかりやすく楽しい」（R01年度61% R02年度71% R03年度74%）を令和6年度には80%以上にする。

2 基本的生活習慣を育成すると共に地域連携を活用したキャリア教育の推進

(1) 教育活動全般を通して、基本的な生活習慣と公共マナー等の規範意識を育む取組みを推進する。

ア 登下校時の校門指導を充実することにより、社会生活を送る上で必要な「挨拶」「言葉遣い」「時間を守る」ことを身に付けさせる。

学校に登校できない生徒、学校に来て授業に入れない生徒に対して、中学校や家庭等と連携することにより指導の充実を図る。

イ 食育・保育に対する教育を充実することにより、健康な身体の育成を促すと同時に「性に関する教育」・「がん予防教育」を実施する。

※中途退学する生徒（R01年度4名 R02年度4名 R03年度6名）を令和6年度までに3名以下にする。

(2) キャリア教育の推進

ア 探求活動を通じてコミュニケーション力を向上させると共に、ハローワークや地域企業等と連携して、望ましい職業観・勤労観を養い、自己理解を深め、主体的に進路選択できることをめざし、職業適性や個々の特性を考慮した進路選択支援と職業能力の充実による就労への準備を進め就職内定率100%維持をめざす。また健康的で安定した働き方を実現するために働き方や労働環境に対する意識を高める。

イ 生徒への進路保障を充実させるために、地域企業との連携や信頼関係づくりに努めるとともに、生徒にライフプランニングを思考させ、職業意識や社会的スキルを高める。

ウ 創造的人格を形成するため、アイデアを形にする方法を習得させ自信を高めチャレンジ精神を養う。

※生徒向け学校教育自己診断において、「将来の進路や生き方について考える機会がある」と答える生徒（R01年度76% R02年度79% R03年度84%）を令和6年度までに90%以上にする。

(3) 地域連携の推進

ア 地域の学校への出前授業、イベントやボランティア活動に積極的に参加させ、コミュニケーションスキルやボランティア精神を養うと共に、地域に根ざした教育活動を展開する。

※地域イベントや出前授業への生徒の参加を、（R01年度には6回 R02年度0回 R03年度0回）令和6年度には年間7回にする。

3 安全で安心な学校づくりの推進

(1) 生徒支援体制

ア 高校生活支援カードなどを活用し、すべての生徒に対して適切な指導と必要な支援を行い、自立と社会参加に向けて一貫した教育支援を継続して行う。

イ 教育相談体制を充実させ、課題を抱える生徒の早期発見・支援を行う。

ウ あらゆる教育活動において人権教育を進め、相互が敬愛し、互いの信頼の上に立って人権が尊重される心の通う教育を実現する。

※生徒向け学校教育自己診断において、「学校に行くのが楽しい」と答える生徒（R01年度65% R02年度59% R03年度55%）を令和6年度までに70%に引き上げる。

※生徒向け学校教育自己診断において、「人権について学ぶ機会がある」と答える生徒（R01年度77% R02年度81% R03年度81%）を令和6年度までに85%に引き上げる。

(2) 安心で安全な学校づくり

ア 生徒が安心して授業を受けることができるように、授業を受ける環境を整備し、授業規律を守らせることを徹底する。

イ 災害時における連絡体制の確立と防犯防災教育の充実

※生徒向け学校教育自己診断において、学校安全の項目における肯定率（R01年度84% R02年度76% R03年度84%）を令和6年度までに90%に引き上げる。

4 校務の効率化と働き方改革の推進

ア ICT教育を充実し職務の効率化を図る。

イ 学校保健委員会、安全衛生委員会を活性化するとともに、「大阪府部活動の在り方に関する方針」・「府立学校における働き方改革に係る取組みについて」などを踏まえ、生徒・教職員の健康管理体制を充実する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年1月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>生徒 全体的に肯定的回答が上昇している。 ・10ポイント以上上昇した質問 「修学旅行は楽しく行えるように工夫している」 +18.2ポイント 「自分の学級楽しい」 +16.4ポイント 「先生はいじめなど私たちが困っていることについて真剣に対応している」 +15.1ポイント 「この学校にはほかの学校にはない特色がある」 +14.7ポイント 「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」 +11.7ポイント 「授業はわかりやすく楽しい」 +10.8ポイント ・下降している質問 学校のHPをよく見る。 -19.5ポイント(情報はHPではなくデジタル連絡が主体のため) 校長先生の話は興味深くわかりやすい -9.1ポイント(内容を精査する。)</p> <p>1 学校満足度 [本年度 増△ 減▽ (昨年度)] 「学校に行くのが楽しい」 81.0% △ (54.5%) 「自分の学級は楽しい」 80.0% △ (63.6%) 【分析】学校に来ることを楽しい何かの取り組みが必要。 (早めに登校できる場所等の環境整備を検討)</p> <p>2 学習指導 「授業がわかりやすい」84.4% △ (73.6%) 「教え方に工夫している先生が多い」90.6% △ (85.2%) 「学習の評価については納得できる。」90.6% △ (88.9%) 【分析】前年度より全て増加。教員の授業力向上の成果が出ている。</p> <p>3 生徒指導 「学校生活についての先生の指導は納得できる」81.3% →(81.4%) 「学校では生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている。」 90.7% △ (81.5%) 【分析】前年度と同程度。教員と生徒の信頼関係が構築されている。</p> <p>4. 人権教育、生徒相談体制 「先生はいじめなど私たちが困っていることについて真剣に対応している」 90.6% △ (75.5%) 「担任の先生以外にも保健室や相談室で気軽に相談することができる」 87.5% △ (75.5%) 【分析】担任・相談室・保健室・D×Pなどマルチに相談できる体制や生徒の信頼関係が構築されている。</p> <p>5 キャリア教育 「将来の進路や生き方について考える機会がある」90.3% △ (83.6%) 「学校は進路についての情報を知らしてくれる」 83.7% →(85.4%) 【分析】進路 HR を中心に生徒一人ひとりに寄り添う指導が生徒の進路選択に生きた。</p> <p>6 保護者 【分析】回答数が少なすぎるため分析できず。回答数を増やす取り組みが必要。 (回答期間を長く設定し、懇談時での回答を依頼するなどを検討)</p>	<p>第1回 令和4年6月25日(木) ○生徒数減少に伴う再編対策について 過年度生、勤労学生の受入れによる生徒数増加に期待します ○多様性のある生徒の育成方法について質問 充実した教育の実施、スタディールームなどの取り組みを説明 ○観点別評価について 一年生から今までの評価をと異なり(3観点)評価方法であることを説明</p> <p>第2回 令和4年10月28日(金) ○スクールミッション案について もっと短くしてはどうか。 資格取得などのアピールはどうか。 ○進路指導について インターンシップができない等、就職活動に新型コロナウイルス感染症の影響が出ているので、例年以上にきめ細かく指導してもらいたい。 ○学校経営計画進捗状況について 出前授業など行えていないのが残念である。感染予防を工夫して地域連携や広報活動を積極的に行ってほしい。</p> <p>第3回 令和5年2月3日(木) ○ICT化によるオンライン授業等で出席を認めるようにしてはどうか。 ・・教育庁と協議を進めていく。現在、授業は対面が原則。 ○動画配信サービス等の学習への活用を進めてはどうか。 ・・外部コンテンツの活用は進めたい。 ○通常の広報をしても入学希望者を増やすことは難しいのではないかと。 ・・今年から全日制の高校へ進学しづらい生徒へ案内を強化したい。 ○観点別評価は定時制こそ活用できるのでは。 ・・その通りだと思う。定期テストの位置づけなど教員の意識の変化を促していきたい。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3年度値]	自己評価
1 学ぶことの喜びを通して確かな学力の育成	(1) 基礎的・基本的な学力育成 ア 個別の指導方法の工夫、教員間で生徒の情報を共有 イ ICT モノづくり教育の導入 ウ 外国語実習の導入	(1) ア・キャリアパスポートをキャリア教育の中心に位置づける。 ・認知トレーニング教材を導入し生徒を支援する。 イ・ロボティクス教材を導入し、プログラミング学習や ICT 教育を推進しモノづくりの楽しさを体感させる。 ウ・旅行者の案内などを通じてコミュニケーション能力を養う。	(1) ア・HR でのキャリアパスポートの有効利用年3回 ・認知トレーニング年3回以上 イ・学校教育自己診断(教員)における ICT を活用した授業に関する肯定率 100%[100%] ・課題研究発表会 年1回 ・プログラミングを活用したイルミネーション課題制作展示 ウ・英語検定合格者2名以上[一名] ・学外での実践的な外国語を活用した案内事業 年1回 [校内実施]	(1) ア・キャリアパスポートを学校行事ごと学期ごとに記入し振り返りに活用 (○) ・認知トレーニング (△) (対象となる生徒がいなかった0回) イ ・学校教育自己診断(教員) コンピュータ等の ICT 機器が、授業などで活用されている。 [100%] (○) ・課題研究発表会 1/25 実施 (○) ・希望者がおらずイルミネーションの課題研究班ができなかった。(△) ウ・英検受験者「0名」(△) 希望者を募れなかった。 ・コロナ禍では旅行者との接触はまだ難しい。(△) ・韓国語弁論大会参加(韓国大阪青年会議所主催) (○) ・日韓高校生未来プロジェクトに参加(1名)(○)
	(2) 教員のスキルアップを活用し魅力ある学校づくり ア 教員のスキルアップ イ 質の高い学びの提供	(2) ア・公開授業週間を活性化し、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業力、指導力の向上に努める。 イ・授業や HR 等で1人1台端末を有効活用する機会を増やす。 ・StudyRoom 利用を推進し、自学自習する習慣を養う。 ・校内研修を年回4回実施する。	(2) ア・公開授業週間 年2回 [年2回] イ・StudyRoom 利用者 100 名以上[92 名] ・職員校内研修 年4回 [年4回]	(2) ア・11月に公開週間を1回実施(△) 1月に体制が整わずできなかった。 イ・StudyRoom の開設日の増加(◎) 通常授業時週1日・考査1週間前から終了まで毎日・長期休業中週2回開設 来室者のべ98名 ・職員研修 7/26 救命救急研修 9/20 コムブック活用公開授業 10/20 コンプライアンス研修 11/17 差別地域フィールドワーク 12/9 不登校問題研修 12/16 障がい者雇用問題研修 12/20GIGA スクールオーガニズド研修 2/16 同和問題研修 8回(◎)
2 基本的な生活習慣の向上 ア 基本的な生活習慣の充実 イ 健康な身体育成 と共に地域連携を	(1) 基本的な生活習慣の向上 ア 基本的な生活習慣の充実 イ 健康な身体育成	(1) ア・全教職員の登下校時の校門指導や健康チェックにより生徒とのコミュニケーション機会を増やし、生活規律や学習規律などを通じて基本的習慣を身に付けさせる。 ・不登校生徒への家庭連絡、家庭訪問の強化 イ・生徒の健康維持を実施するため、「保健だより」「食育だより」を発行し啓発する。 ・「性に関する教育」「がん予防教育」を実施する。	(1) ア・学校教育自己診断(生徒) 結果における生徒理解の肯定率 87%[87%] ・校門指導における遅刻回数 1000 以下[1092] ・学校教育自己診断(保護者) 結果における教育活動の肯定率 75%[73%] イ・「保健」「食育」だより発行回数 10回[10回] ・「性に関する教育」講演 1回[1回] ・「がん予防教育」授業で実施 1回[1回]	(1) ア・学校教育自己診断(生徒) 先生は生徒の意見を聞いてくれる。[87.5%] (○) 学校では、生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている。[90.7%] (○) ・遅刻回数のべ827人(○) ・学校教育自己診断(保護者) 学校は、保護者の願いにこたえている。[100%] (◎) イ・「保健」だより [12回] (○) ・ 性に関する HR に変更 (○) 11月デートDV 12月妊娠・中絶について ・がん予防教育(1年生の授業で実施) (○)

府立佐野工科高等学校 定時制の課程

活用したキャリア教育の推進	<p>(2) キャリア教育の推進</p> <p>ア 進路支援体制</p> <p>イ 職業意識の向上</p> <p>ウ チャレンジ精神の育成</p> <p>(3) 地域連携の推進</p> <p>ア 地域貢献活動・ボランティア活動</p> <p>イ 広報活動の充実</p>	<p>(2)</p> <p>ア・就職希望者に対して安定した求人企業の確保と新規求人開拓に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハローワークと連携し、就業率向上を図る。 ・地域企業と連携した就労場面でのOJT やインターンシップ等を実施する。 <p>イ・VRT カードを活用し、職業適性の理解を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部講師や卒業生講話を実施する。 ・人間関係調整力、コミュニケーション能力、社会的スキルの向上を図る <p>ウ・モノづくり教育を通してアイデアを具現化する方法を身に付けることにより、自信やチャレンジ精神を養う。</p> <p>(3)</p> <p>ア・近隣小学校への出前授業を実施する。地域イベント等に積極的に協力する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会が主体となった地域清掃活動を実施する <p>イ・中学校訪問を実施し、地域の中学校への広報活動を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・WEB 参加も含んだ学校説明会の実施 	<p>(2)</p> <p>ア・就職内定率の向上 100% [100%]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就業率の向上 60% [51%] ・インターンシップ等参加者数 5名 [0名] <p>イ・職業適性検査 2回[2回]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断(生徒)における進路指導項目の肯定率 90% [85%] <p>ウ・技術コンクールや各種競技への参加 3回[3回]</p> <p>(3)</p> <p>ア・小学校への出前授業やイベント等への参加 5回 [0回]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域清掃活動 4回[4回] <p>イ・中学校訪問 30校以上[31校]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校説明会 年5回実施[年5回] 	<p>(2)</p> <p>ア・就職内定率 100% (◎)</p> <p>学校斡旋 4名(一次合格 100%) 縁故就職 1名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就業率 [52.4%] (○) ・インターンシップ 0名 (△) (希望者 1名体調不良で中止) <p>イ・適性検査 年度末に 1回実施 (○) 検査内容を見直し効果的なものに変更した</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来の進路や生き方について考える機会がある。[90.3%] (○) ・学校は、進路についての情報を知らせてくれる。[93.8%] (○) <p>ウ・大阪府学生科学賞 2点出品</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 39 回高等学校・中学校化学研究発表会 1点 (○) <p>(3)</p> <p>ア・小学校出前授業は 0回 (△) (コロナ禍で受け入れなし)</p> <p>地域 NP0 主催小学生対象プログラミング教室計画 3回実施予定 (○)</p> <p>泉佐野青年会議所主催イベントに体験ブース出展 (8月) (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域清掃活動 [5回] (○) <p>イ・中学校訪問 (12月・1月実施予定 9校) (△) 3月と年度初めに広報ではない中学校訪問を実施予定(入学者出身中学全校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校生徒への広報と学校見学を募集した。(○) ・学校見学 9組 12人 (○)
3 安全で安心な学校づくりの推進	<p>(1) 生徒支援体制</p> <p>ア 個別の生徒支援</p> <p>イ 教育相談体制</p> <p>ウ 人権教育</p> <p>(2) 安全で安心な学校づくり</p> <p>ア 授業環境の整備</p>	<p>(1)</p> <p>ア・SC・SSW や外部機関と連携を図りながら、担当分掌が中心的な役割を果たし、生徒支援会議を定期的に行い、ヤングケアラーなど支援を必要とする生徒の情報共有や支援方法を検討する。</p> <p>イ・SC・SSW や外部機関と連携した学校居場所づくりの推進と個々の生徒の情報を共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校との連携を密にし、生徒の状況を把握する。 ・生徒が気軽に相談できる教育相談室をめざして環境整備を行う。 <p>ウ・行事等の集団づくりを通してコミュニケーション能力を高める指導を行い、互いに尊重し合う態度を育成し、いじめ・暴力を許さない環境づくりを行う。</p> <p>(2)</p> <p>ア・感染症対策を継続した上で、配慮を要する生徒をはじめ、すべての生徒にとって「わかる、できる」授業をめざし、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりを推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HR 教室及び校内の清掃活動を行い、環境の美化を徹底する。 	<p>(1)</p> <p>ア・生徒支援会議及びケース会議を毎月実施する</p> <p>イ・学校教育自己診断(教員)における教育相談項目の肯定率 90% [88%]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断(生徒)における教育相談項目の肯定率 82% [82%] ・退学者数の削減 3名 [6名] <p>ウ・学校教育自己診断(生徒)における人権教育の肯定率 85% [81%]</p> <p>(2)</p> <p>ア・学校教育自己診断(生徒)における授業改善の肯定率 90% [85%]</p>	<p>(1)</p> <p>ア・支援会議を毎月開催 12回</p> <p>ケース会議 47回 (○)</p> <p>イ・学校教育自己診断(生徒)</p> <p>教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる。[88.8%] (○)</p> <p>保健室や相談室で気軽に相談することができる。[87.5%] (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談来室延べ 15名 (○) ・退学者 9名 (△) (就学意欲を向上させられなかった。) ・SSW の家庭訪問回数 8回 (○) <p>ウ・学校教育自己診断(生徒)</p> <p>命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。[93.8%] (○)</p> <p>人権について学ぶ機会がある。[90.6%] (○)</p> <p>(2)</p> <p>ア・学校教育自己診断(生徒) (○)</p> <p>授業はわかりやすく楽しい。[84.4%]</p> <p>授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある。[84.4%]</p> <p>教え方に工夫をしている先生が多い。[90.6%]</p>

府立佐野工科高等学校 定時制の課程

	イ 防犯防災教育	イ・生徒・教員における災害時の連絡体制を整備する。 ・HR等で防犯・防災教育を実施する。	イ・メール等を活用した緊急連絡体制の継続 ・防犯・防災教育の実施回数 2回以上 [2回]	イ (○) ・さくら連絡網を活用中 ・9/26 避難訓練 3学期防災 HR 実施
4 公 務 の 効 率 化 と 働 き 方 改 革 の 推 進	(1) 公務の効率化 ア ICTによる公務の効率化 イ 労働安全衛生管理体制の充実	(1) ア・教科において ICT やデジタル教材を活用するなど、公務の効率化を図る。 イ・「府立学校における働き方改革に係る取組みについて」に沿って業務の見直し・効率化を図る。 ・スクールサポートスタッフ等の外部人材を活用し、業務の効率化を図る。	(1) ア・ICT活用における公務軽減の肯定率を100% [100%] イ・年次休暇取得日数10日以上 [11.0日]	(1) ア・学校教育自己診断(生徒)コンピュータ等のICT機器が、授業などで活用されている。 [100%] (○) 学校は1人1台端末を効果的に活用している。[96.5%] イ ・安全衛生に関する会議を月に一度実施 (○) ・年次休暇取得率16.4日 (○)